Global Peace Foundation Japan Annual Report

一般社団法人グローバル・ピース・ファウンデーション・ジャパン

2012年度事業報告書

ご挨拶

2009年、グローバル・ピース財団（GPF ）の国際本部が米国で創設され、各国や地域の異文化間のコンフリクト（対立・摩擦）や貧困問題などを解決する社会プログラムを実施してきました。その最中、2011年3月、東日本大震災が発生し、当時、私は米国のシアトルでCNNのニュースを通しその映像を見ながら驚愕したことを覚えています。被災された方々やご家族に心からお見舞い申し上げます。

今なお被災地復興の遅れや放射能汚染が深刻な不安をもたらしていますが、私は日本が震災前から抱えていた閉塞感に目を向けざるをえませんでした。少子高齢化による労働人口の減少、拡大する財政赤字、毎年3万件近い自殺件数、希薄化するコミュニティでの孤独死など日本は重い空気に覆われています。

戦後、直接的には「戦争」に巻き込まれることのなかった日本ですが、「平和」が実現したとはいえない状況であります。この日本の再生の一助となるために、GPFは日本支部として一般社団法人グローバル・ピース・ファウンデーション・フェスティバル・ジャパン（GPFF Japan）を2012年6月に創設しました*。

今後、労働人口の不足から外国人を受け入れていかざるを得ず、グローバル化する世界に対応していく意味でも国内における多文化共生の文化が求められています。私たちは、日本の地域活性化のためにも積極的に多文化共生を支援していきたいと思います。

また、東アジアに位置する日本は周囲の国々との良好な関係が必要不可欠です。世界の数多くの国・地域から日本は東日本震災支援を受けました。日本には「お返し」という美しい習慣がありますが、アジア諸国に対して、子どもたちの識字率向上と地域発展に寄与する活動を「オールライツ・ビレッジ・プロジェクト」としてフィリピンとインドネシアで実施しました。また、東北アジアの中で一番深刻な問題を抱える分断された朝鮮半島の平和においても貢献できる道を模索し始めました。

今後ともGPFF Japanの活動へのご理解とさらなるご支援ご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます。

*2013年10月に名称を一般社団法人グローバル・ピース・ファウンデーション・ジャパンに変更しました。

代表理事　後藤 亜也

Contents

02 代表挨拶
03 GPFとは（設立の経緯と私たちのミッション）
04 2012年度の事業報告
07 海外のハイライト（世界のGPF）
09 会計報告

グローバル・ピース・フェスティバルとは

グローバル・ピース・フェスティバル（Global Peace Festival: 略GPF）とは人種、宗教、国籍、文化の壁を越えた共通のアイデンティティ“One Family Under God（ワンファミリーアンダーゴッド）”のビジョンを掲げ、「①文化や宗教を超えた協力関係の構築」「②結婚と家庭の価値の再認識」「③平和と奉仕の文化の拡大」を目指したプログラムを推進し、その成果を祝賀するフェスティバルのことです。

また、グローバル・ピース・リーダーシップ・カンフェレンスやグローバル・ピース・コンベンションなどを開催し、各界リーダーが平和に向けて討議し、成功事例を共有する場を提供しています。

2007年にGPF運動が始まって以来、これまで約30の国と地域でフェスティバルが開催されました。2009年、米国で非営利法人としてGlobal Peace Festival Foundation (GPF財団)が設立され、現在１４カ国でGPFFのチャプター（支部）が発足しました。各国における社会プログラムの実施にあたっては政府機関やNGOとパートナーシップを重視しています。

日本においても2012年6月2日に開催されたグローバル・ピース・リーダーシップ・カンファレンスを契機として、一般社団法人グローバル・ピース・ファウンデーション・ジャパン（GPF Japan）が設立されました。

2012年度の歩み

2012年度は、以下の3つを重視して事業を進めました。

1.多文化共生の「祭り」で地域活性化

2.外からの東日本震災支援の「お返し」

3.朝鮮半島平和のためのサポート

そして、具体的には次のような事業を実施しました。

- 途上国の電気のない地域の家庭にLEDソーラーランタンを寄贈し、子どもたちが学習できる環境を整備するとともに、将来的なコミュニティ開発を目指す「オールライツ・ビレッジ・プロジェクト」をフィリピンやインドネシアで実施しました。
- 韓国やアメリカで行われたグローバル・ピース・コンベンションに日本から参加者を派遣しました。
- 在日外国人の現状や課題、政策などに関する研究調査を行いました。

また、初年度ということで、事務所の開設や会員制度の整備、公式ウェブサイトのオープンなど組織整備を進めました。

グローバル・ピース・リーダーシップ・カンファンレンス（日本）

閉塞感に覆われている今の日本の現状を打破するにはどのようなリーダーシップの文化を作っていけばいいかについて議論し、今後の具体的なアクションステップを考えていくとともに、日本におけるGPFのキックオフを目的として実施されました。

GPFでは世界的に「モラル・イノベーティブ（道徳的で革新的な）なリーダーシップの必要性」を提唱していますが、今回は世界各地で様々な立場から平和構築を進めているリーダーをスピーカーとしてお招きし、その知見を共有しました。

■日時:2012年6月2日（土）
■場所:AP東京八重洲通り
■参加者:120人
■テーマ:モラル・イノベーティブなリーダーシップの提言
～平和の文化創造の事例を世界に学ぶ～
■プログラム:事例紹介及びグループワーク
・ガンデサン・レチュマナン氏（マレーシア首相府国家統一統合局次長）
・チャンドラ・セティアワン博士（インドネシア儒教最高会議幹部会コーディネーター・プレジデント大学学長）
・ヨンダム宗師（財団法人仏教放送局理事長・社団法人韓国互助運動常任共同代表）
・ソ・インテク氏（GPF韓国 副会長）

グローバル・ピース・リーダーシップ・カンファンレンス（韓国）

2012年8月17日から19日かけて韓国ソウルでGlobal Peace Leadership Conference Korea 2012が開催されました。
「統一韓半島の未来のビジョンと世界平和の構築」をテーマに「統一韓半島の未来のビジョン」「統一韓半島の社会統合のための努力」「生活型統一運動の具体的実行方案」、「統一韓半島を促進する女性の役割」など、４つのセッションで構成され、イ・ギテク民主平和統一諮問会議首席副議長を大会長とし、フィリピンからはガウデンシオ・ロザレス枢機卿（カトリック教会）、アメリカからは韓半島問題の専門家であるエニ・ファレオマバエガ米国会下院アジア太平洋小委員長、マイケル・ホンダ下院議員、チャールス・モリスン東西文化交流センター所長など、世界中から380名ものグローバルリーダーが参加しました。

このイベントを通して統一が単なる政治主導のものではなく、政府やNGOと連携しながら、国民一人一人が参加する生活密着型統一運動であることの重要性が強調され、19日にヨイド広場で行われた統一実践お祭りでは南北統一のためのユニークなアイデアを募集した統一公募展の表彰やブース展示、統一宣言文への署名などが行われました。

GPF Japanは日本からフィリピン・ソサエティ・イン・ジャパン名古屋チャプターのスーザン・デオノ・ラセット代表を招待し、ガウデンシオ・ロザレス枢機卿にお目にかかり東アジアの平和事業の一環であるオールライツビレッジプロジェクトを通したフィリピンコミュニティーの発展についてメッセージをいただきました。この機会を通してこれまで韓国GPF財団で推進されてきたオールライツビレッジプロジェクトをGPF Japanも支援していくことを約束しました。

■主催：韓国GPF、国会議員：キム・ソンテ、ベ・ギウン、チョ・ミョンチョル、ソ・ヨンギョ、ファン・ジュホン
■後援：外交通商部、統一部、ソウル特別市、韓国観光公社、朝鮮日報、テレビ朝鮮、統一を実践する人たち
■協賛：スバル、セントラルシティ、一成建設、JINHAK、グリーンハナツアー、ギョンジンTRM、APEX、Grand Hilton

グローバル・ピース・コンベンション（米国）

「モラル・イノベーティブなリーダーシップ：健全な家庭、倫理的な社会、そして世界の平和文化の構築に向けて」をテーマに開催しました。今回の最も重要なイベントの一つがラテンアフリカの元国家元首によるラテンアメリカの平和と発展のためミッションの立ち上げでした。また開会総会では、キング牧師の娘であるバーニス・キング師（キングセンター会長）が講演しました。

具体的には「アフリカの展望と機会」「モラル・イノベーティブなリーダーシップ：健全な家庭、倫理的な社会、そして世界の平和文化の構築に向けて」「経済的エンパワーメントと反貧困戦略」「世界の平和文化構築における女性のリーダーシップ」などのテーマについて話し合われました。

■日時：2012年11月29日～12月2日
■場所：米国アトランタ マリオット・マーキースホテル
■参加者：約400人（日本からの参加者6名）
■共催：Points of Light Institute
　　ナフダトゥール・ウラマ（NU）

オールライツ・ビレッジ・プロジェクト（フィリピン）

フィリピン・ソサエティ・イン・ジャパン名古屋支部(PSJNC)が、フィリピン・ラグナ州のガワッド・カリンガ（GK）とアルファ・ファイ・オメガ（APO）とともに住宅建設支援活動を行ってきた同州サンタクルス市ガティド村において第一回フィリピン・ジャパン・オールライツ・ビレッジ・プロジェクト支援ツアーが開催されました。日本から11名が参加し、現地の58の家庭にソーラー充電LEDライトを寄贈しました。

ガティッド村では、村の入り口から通路に沿って日本とフィリピンの旗を振った子どもたちが笑顔で並んで歓迎してくれました。日本の参加者たちは村の人たちと一緒に記念樹を植え、その後、それぞれの家庭を訪問しました。

また、今回のプロジェクトでは、ラグナ州政府から多大なサポートを受けることができました。

■日時：2012年12月27日～29日
■プロジェクト開催地：フィリピン共和国ラグナ州サンタクルス市ガディット村
■日本からの参加者人数：11名
■共催：PSJNC（フィリピンソサエティインジャパン）、NGOガワッド・ガリンガ（GK）、アルファファイオメガ（APO）

【参加者の声】

今回初めてのフィリピン、またプロジェクトの参加になった。市庁舎、プロジェクトサイトへ実際訪問して子どもたちの表現力、笑顔に感激した。韓国のPSYのカンナンスタイルは日本では余り人気が無いのに、ここでは人気であることに驚いた。もっと日本もアジアの文化にオープンになるべきではないかと思った。

また現地の村に訪問すると、家は狭く暗いのに6～7人の家族が生活していて、でライトの必要性をリアルに感じる事ができた。ライトを点灯した時に暗い村が光に照らされて何か希望が芽生えた様な感じを受けた。光を見た現地の人びとの笑顔が印象的だった。こういう事が継続的に行われて行く事が必要な事だと改めて思う。これからも協力したいと思わされた体験だった。（社会人・女性）

オールライツ・ビレッジ・プロジェクト（インドネシア）

西ジャワ州ボゴール県メガムンドゥン郡パセバン村において第一回インドネシア・ジャパン・オールライツ・ビレッジ・プロジェクト支援ツアーが開催されました。アンティス村長をはじめ58家庭が総出で、一行の到着を歓迎。一行はまず家庭訪問を行いました。

家庭訪問を終えた一行は、テント会場に集まり、記念式典を行いました。アンティス村長は、「日本からわざわざインドネシアのこのような遠い村に来て頂き、支援をして下さって心から感謝します」と述べました。

また、プロジェクトパートナーであるインドネシア最大のイスラム社会団体ナフダトゥル・ウラマーのボゴール支部長のKHロムドン師がプロジェクトサイトにかけつけました。

同師は、「ボゴール地域を担当するNU指導者として、今、恥ずかしい思いがします。なぜなら、日本人の方が私よりも先にこの村の事情を知り、そして支援をすること決めて下さったからです。今後、GPFと一緒にこの村の発展のために協力していきたいです。そのためにも、村の子どもたちがNUの小中高のイスラム宗教学校で学ぶための奨学金を出すことを約束します」と述べ、村人たちは大きな拍手で応えました。

■日時：2013年1月28日～31日
■プロジェクト開催地：インドネシア共和国西ジャワ州ボゴール県
　　メガムンドゥン郡パセバン村
■日本からの参加者：15人
■共催：在日インドネシア留学生協会(PPI JEPANG)、
　　トリサクティ観光大学(STPT)、ナフダトゥル・ウラマー(NU)

【参加者の声】

日本とタッグを組み、日本からチームを派遣したからこそグローバル・ピース・ウーマンやナフダトゥール・ウラマの同村への支援表明ということになったのだろう。村の人々にとっては変わりようのない村がたった１日で変わった。前途に希望があるという思いを抱いてくれたのではないのか。

しかし、それを確実なものにするには今一度、二度のプロジェクトチームの派遣ということも視野に入れておかなければいけないのだろうという感想を持った。そうすることによって村の人々も、今までのように単に口を開けて待っているだけでは駄目だ、「我々も動こう」ということにつながっていくのだろうと思う。（社会人・男性）

多文化共生に関する研究調査事業

日本の地縁・血縁・職縁（社縁）は、閉鎖的な「ムラ社会」であると指摘されていますが、NHKのドキュメンタリーでも取り上げられたように「無縁社会」化が進むとともに、それらの伝統的な縁が希薄になっています。一方で、国際化が進む中で、多様な文化的バックグラウンドを持った人たちと接する機会が増えています。

今後、多様性を尊重する開かれたコミュニティを作っていくためには、在日外国人との共生が試金石と言えるでしょう。文化的には多様性があっても、家族のように支え合うコミュニティが求められています。

6月に実施したグローバル・ピース・リーダーシップ・カンファレンスでは、多民族国家マレーシアの首相府国家統一統合局次長のL.ガンデサン氏がマレーシア首相ダト・スリ・ナジブ・トゥン・ラザック氏の「私たちは、1つの支配的な価値体系の下で同化を強いるのではなく、多様性を尊重することを学ばなければならない」という言葉を引用しながら、多様性と包括性の両方の必要性を訴えられました。

今年度は、海外の事例調査を中心に、多様性と社会的な統合をどう両立させていくかについての研究調査を行いました。

海外のハイライト

米　国

米国保健社会福祉省の児童・家庭援護庁と40以上のパートナー組織とともに、アトランタで「家庭強化とコミュニティ提携」（Co-convenes the Strengthening Families and Communities Coalition=SFCC）を共同開催しました。SFCCは、若者暴力、学校中途退学者、十代の妊娠と金融リテラシーなどの問題についての戦略的に取り組んでいます。GPFはワシントンD.C.やニューヨーク、ニュージャージーでSFCCのイニシアティブに協力しいます。

また、アトランタにあるマーティン・ルーサー・キング・ジュニア中学校において「リーダーシップ・アカデミー」プログラムを、米国保険社会福祉省の児童・家庭援護庁やモアハウス研究所などのパートナーと共に実施しました

パラグアイ

文部省公認の人格教育カリキュラムを発表して、国内の教員養成をするとともに、汚職防止やグッド・ガバナンスのモデルを造るためにパラグアイのためのロードマップに取り組んでいる主要な専門家組織をサポートしています。

その他にもチャゴ地域でコミュニティ開発計画を始めました。

ケニア

2007年・2008年の選挙後の紛争で多くの人命と財産が失われたリフトバレーで、若者に学習機会と技術訓練の場を提供する「リフトバレー・平和教育」（RVPI）が2013年3月に平和的に完了しました。

フィリピン

2011年6月以来、PSNEI（国家社会奉仕訓練プログラム<NSTP>教育者・実施者フィリピン協会）によって採用されたGPFの平和教育モジュールを発展させ、モニターしています。特にミンダナオ島の学校に平和教育モジュールを展開しており、フィリピン全国148の高等教育機関にモジュールの導入を支援しました。

海外のハイライト

ネパール

ネパールの遠隔地域のために図書館を設立する「グローバル・ピース・ライブラリ計画」は、個々の寄付を受けて、2010年から累計25の小学校に図書館を設立しました。

2012年3月の「国連国際水の日」を中心に一か月間、政府と民間組織が危険的状態のバグマチ川への認識を高め、適切な廃棄物管理と節水に関する市民教育に参加しました。5月には協力団体と「ネパール水エキスポ2012」を開催し、環境保護を促進するために、カトマンズでの廃棄物管理と節水のための新技術を公開し、16,000人が来場しました。

マレーシア

アジアサッカー連盟（AFC）とマレーシア首相直属の国家統合統一省と協力して、「ミッドナイトフットボールリーグ」と「リーダーシップ・キャンプ」を組織し、社会的結束と青年の間のサービス（奉仕）の文化作りを促進してします。

また、韓国と対応して、マレーシアの市民社会リーダーが共催したグローバル・ピース・リーダーシップ・エクスチェンジを共催しました。その他にも、人種、宗教と国籍を越えた地球的なビジョンをもつ指導者になって、ボランティア精神、サービス学習と挑戦的な活動を通じて、モラル・イノベーティブなリーダーシップ教育を若者に提供するために、インターナショナル・ユース・エクスチェンジ（IYE）を開催しました。

教育省と教職員と共に人格教育モジュールを開発しました。

インドネシア

グローバル・ピース・ボランティア・キャンプを東ジャワ州マランで実施し、スラバヤ大学やアイルランガ大学などから多くの大学生が参加しました。

海外のGPF運動に関しては、国際本部のウェブサイトでご覧になれます。

http://www.globalpeace.org/

2012年度収支決算報告

収入の部

会費収入	51,000
寄附金収入	278,100
助成金収入	40,112,318
事業収入	
雑収入	37,386
収入合計	40,588,985

支出の部

1.事業費	
多文化共生の「祭り」で地域活性化事業費	1,657,825
海外から東日本大震災支援の「お返し」事業費	8,510,770
朝鮮半島平和のためのサポート事業費	11,085,329
情報発信・提言事業費	672,826
国際会議事業費	1,217,701
事業費合計	23,144,451
2.管理費	
給与手当	1,450,420
法定福利費	786,224
事務所賃借料	4,839,057
会議費	4,400
支払手数料	55,647
外注費	324,897
リース費	237,565
交際費	26,951
旅費交通費	150,215
事務消耗品費	263,776
通信費	248,493
発送費	22,242
水道光熱費	45,254
諸会費	2,858
雑費	116,904
管理費合計	8,574,903
支出合計	31,719,354
当期収支差額（次期繰り越し）	8,869,931

一般社団法人グローバル・ピース・ファウンデーション・ジャパン

〒150-0021 東京都渋谷区恵比寿西1-3-11 belle恵比寿5階

TEL 03-6416-5435　FAX 03-6416-5436

E-mail info@gpf.jp　URL http://www.gpf.jp